

基本的にはこれまで通り、すべての子供一人一人にとって「今日が楽しく明日が待ち遠しい学校」を目指すことを基調としていきます。

子供たちが安心して楽しく生活し学べるように、そして、保護者にとっても安心して子供を登校させられるように、そんな当たり前の学校を目指します。

そのために、家庭・地域・学校の連携をより一層深められるように尽力していきます。

1 学校教育目標

「よく考える子」 ⇒ どの子にも「わかる・できる」の授業づくり

- ① 各教科における主体性を育てる指導を展開（理解面）
- ② 授業規律・学び方においても主体性を育てる指導を意識（態度面）
- ③ 授業を通して、どの子にも有用感を味わわせる

◎ 「思いやりのある子」 ⇒ マイナス評価でなく、常に「プラス」の評価観

- ① 「違い」を尊重する 同調圧力でなく「協調性」「互譲の精神」を育てる
- ② 優しい言葉があふれる学級、学年づくり
- ③ 学級、学年、学校の活動を通して、どの子にも有用感を味わわせる

「じょうぶな子」 ⇒ 運動機会をつくり、楽しく実践

- ① 遊び・活動を通した運動習慣づくり
- ② 給食指導を通した食育の推進、栄養士と連携した指導
- ③ 遊び、運動を通して、どの子にも有用感を味わわせる

2 学校教育目標の具現化のための重点項目

重点目標は「思いやりのある子」です。「違い」を尊重して、同調圧力でない互譲の精神からくる協調性を育む学級・学年づくりをしていくということです。どの学年・学級においても、いろいろな子がいていろんなことが起きますが、それでもどの子も安心して過ごせる学級・学年を目指します。きまりでしぼったり、同じことを強要したりするのではなく、違っていても互いに協調し合って、楽しい雰囲気の学級になるように、互いに優しい言葉があふれる学級になるように、思いやりのある子の育成を目指します。違っていても注意したり、同じでないことを指摘したりすることのない臨海小学校にしていきたいと思えます。教員の強力な後ろ盾のもとに発動するさまざまな同調圧力…。押しつぶされる側の子供は大抵いつも同じ子供です。「きまりだから」「ルールだから」とすべての子供をあまりに画一的に管理・指導しようとするのではないよう、どの学級・学年も「違い」を尊重するというを確認しました。違うことに対する子供同士のチェックや指摘がなくなれば、おのずと「思いやりが出てくる」はずです。

「違い」を尊重する思いは見えないけれど、思いやりは見えるはず。それは、同調圧力でない互譲の精神からくる友達に対する積極的な行為なのだから。

重点項目の今年度の指標は、子供たちの「思いやりの行為が増えたか」です。